

## 「くらし彩考塾」設立趣旨

吉野 勲（文責）

「地球温暖化は人間活動によるもので今後確実に進み実害に直結する」と、2007年2月の気候変動に関する政府間パネル（IPPC）で示されました。温暖化は、言うまでもなく気温上昇や海面上昇の結果、生態系のバランスを崩し、人類の生存基盤そのものの危機です。

1760年代の英国に始まった産業革命は、1830年以降欧州諸国に波及し、それまでの手工業から機械工業へと産業構造の変化をもたらしました。さらに、1950年頃の中東での大油田の相次ぐ発見が今日の石油文明の礎となりました。そして、戦後日本の高度経済成長はその石油などの資源を輸入し、工業製品を世界中に輸出した結果と言えます。

高度経済成長を通して、私達は確かに便利な生活を得ましたが、2007年の世相を表す言葉の“偽”に表されているように、食や住まいの安心・安全が崩れてしまったと言えます。そこで、こうした大量生産・大量消費でなく“もの”を大切にす社会を次の世代に引き継ぎ、委ねたいと考えています。

### 100年先を考えた地域づくりのために、現在の暮らしの基本である衣食住を**再考**

人間は自然との共生の中で生きている存在であり、私たちが学び、働く目的は、安心・安全な社会の中で、心豊かに暮らすことにあると思います。豊かな自然のある日本には、長い歴史を経て築かれた“木の文化”や各地に多彩な暮らしぶりが、戦前までありました。子どもの頃に自然の中の暮らしを体験した経験のある世代の私たちには、こうした伝統の技や風景を次世代に手渡す責任があります。

### 地球的な視点と地域的な視点を同時に考えつつ、エコロジカルに暮らせる“場”を**再興**

国際的な貨幣経済から環境経済への変革の意識は、物流でなく地域と地域を人の交流する社会を求めて行くのではないのでしょうか。見て見えない地域の宝を活かす個々人の能力や知恵を生かして、100年先を見据えた地産地消をベースとする地域産業を興す地域づくりが大切となります。

そこで、地域の多彩な分野の先人から人間と自然が共生できる知識と知恵を学び、具体的な働き場を創り出していく「くらし彩考塾」を設立します。

### 新しい“西川地域”ができたなら**最高**

芽をだしたばかりのこの塾は、誰でもが先生であり塾生となれます。これからの地域に熱い思いを語りた方や聞きたい方、地域の宝を活かして仕事をしている方や取り組みたい方の“学びと実践の場”に育てたいと考えています。

地域の既存の施設や空間を教室にして**授業**を行い、専門的なことからこれからの生き方や暮らし方にいたる**授業**を通して、人と人の出会いが新しいカリキュラム新しい働き場をつくりだしていくことで、人間と自然が共生する“衣食住+人=西川地域”を創ることを目的とします。